

発見! おごおり遺産

ひこさんみち おごおりまち
No.2 ～彦山道と小郡町～

江戸時代、乙隈から松崎、光行まで市内を南北に走る幹線道路を「薩摩街道」、東西に横切る道路を「彦山道」と言います。彦山道は、地域の重要な道であったとともに、英彦山に向かう人々が通った信仰の道でもありました。

今回のテーマは、その彦山道と小郡町です。



大板井の集落から宝満川に向かう彦山道



幕末頃(19世紀後半)の小郡町



市指定文化財「平田家住宅」の廊下、太鼓橋と客殿

彦

山道は、肥前田代で長崎街道から分かれ、小郡、大板井、井上

を通って本郷、甘木方面へと続きます(後に、「小郡町」(後述)から松崎宿經由の南ルートもできます)。大板井には、現在も水田の真ん中に東西に走る道が残されており、当時の雰囲気を感じることが出来ます。井上は、この道沿いに発展した重要な町で、江戸時代前期の記録に「井上町」として登場します。

彦山道沿いにある市内最大の拠点が「小郡町」です。江戸時代中期に書かれた「小郡町由来」などによると、「小郡町」が現在の場所に本格的に形成されたのは十七世紀中頃のようなのです。町は当初、上町・中町・下町で構成され、後に西道町や新町ができました。町の地割りは、間口3間(約5・4m)、奥行き30間(約54m)の南北に長い区画を基本とする、いわゆる「短冊形地割」で、その町なみは現在も残されています。町の中央には幅約6mの道路が東西に走り(現在の国道500号)、上町と中町の境付近には高札場(幕府や藩からの通達を掲示する場所)や、

松崎番所の下番所(幕府や藩が交通の要衝に設けた監視所)が置かれました。十八世紀前半には町の東西の入口に構口(石垣)を設置し、町の中には現在も水路として残る二重の堀を掘削しました。なお、実相寺は1653年に田代の西清寺から勧請され、祇園神社は1654年、日吉神社は1672年に現在地へ遷宮されています。

「小郡町」は、江戸時代から明治時代にかけて蠶糸産業で大きく発展します。それを現在に残しているのが平田家住宅(市指定有形文化財)です。この住宅は、明治十二年(1879)に再建された主屋の他に、廊下と太鼓橋によって繋がれた客殿や新座敷、巨石を用いた滝や池、流れなどを持つ庭園などで構成され、当時の「小郡町」の発展を今に伝える重要な文化遺産です。現在は地域の人やNPOを中心に、未来に向けた保存修理や、伝統文化の体験講座などが実施されています。

●問合せ先

文化財課 ☎75・7555

おごおり遺産とは? 》》近年の市内調査で「再発見」した文化遺産＝市民のたからのこと